

講義年月日 2004年7月12日(月)

講演者 筒井利子氏(慶応義塾大学三田メディアセンター)

テーマ Bibliographer 育成の実際

配布物 「古典籍の担当者育成を考える：慶應義塾図書館における”和装本研修”の試みの中から」

「慶応義塾図書館における和装本研修と和漢古書目録作成プロジェクトについて」

「慶応義塾図書館所蔵和漢古書目録作成プロジェクト」

「データシート見本(国書)(漢籍)」

「慶応義塾図書館所蔵和漢古書目録 第2次サンプル版」

講義内容

1. 和装本研修

主題専門家育成の一つとして、教員との連携で行った。

和装本は通常整理ではなく特殊整理なので、カード目録のみ(OPAC・古典籍の冊子体目録なし)の探しにくい状態である。

図書館員のみならず教員からも何とかしたいとの意向があったために、データベース作成の叩き台を作ること

を目的とした研修会を行うこととし館員3名の研修者を公募した。

研修期間：2000年7月21日～2001年6月末の1年間(全25回)

研修時間：毎週1回1時間半の講義(勤務時間内)

研修場所：図書館内貴重書室および斯道文庫

講師：漢籍、国書、準漢籍の専門家(教員)

内容：国書と漢籍とをわけて基本的な知識を講習した後に、目録実習を

行った。

研修終了後は基礎知識を共有すべく受講者が講師となり他の図書館員に研修をした。

(2001年7月～12月、全10回)

研修会で紹介した参考文献

:日本古典書誌学総説 / 藤井隆著 ; 大阪 : 和泉書院 , 1991.4

:日本における書籍蒐蔵の歴史 / 川瀬一馬著 ; 東京 : ペリかん社 ,

1999.2

2. 和漢古書目録編纂の経緯と概要

・図書館員の考える目録と研究者の考える目録は請求記号の必要性や、年代の取り方・書

名の取り方など

それぞれ見解が異なる。研究者にも図書館員にもどちらにも満足のいく目録を 2008 年創立 150 周年に公開

できるように作成する。(貴重書と準貴重書のための 3500 タイトル)

・冊子体目録と OPAC 相互に利用できることを基準にデータシートをおこすためのマニュアルを作成した。

データシート記述マニュアル第 2 次サンプル版(配布資料)参照

教員の強い希望で、あいまいな情報を目録にきちんと記入することにした。

(刊写地、刊写者、刊写年、内題、外題、扉題など、データシート見本参照のこと)
特に刊写年は推定であっても必ず記入する必要があるために、時代区分表を作成して確認している。

国書、漢籍、朝鮮、ベトナム時代区分表がある。

データシートのフォームは国書と漢籍とも共通であるが、慣習が異なるので記載方法は異なる。

そのために国書と漢籍のマニュアルは別物となっている。

・データシートは図書館員とアルバイトで作成するが、その後に研究者が現物とシートを見比べながら点検をする。そこでデータの不備や不足があった場合はさし戻され、指導を受ける。

・収録対象は貴重書・準貴重書のうち国書 1886 年以前のもの、漢籍は 1911 年以前のもの
で影印、複製は除く。

さらに文書(私的なもの)を除いた和装本とする。

3. 今後の課題

作業人員の不足

嘱託・大学院生アルバイト・スタッフが月に数日と夏休みなどに作業を行っているが遅れている。

また、資料の特殊性や教員の都合により点検者の確保が難しく点検が追いつかない。

機械データ化についての問題

・データシートは現物どおりの記載をするが、OPAC は元の字の表現が完全にはできない。
コードにない文字についてユニコードのどれを使うか、どこまで入力するか、
新字を使用することで書誌学的にどうかなどの問題が未解決である。
・標目が OPAC と異なると検索できない。国書人名を括弧付で記載する等できる範囲で補記している。

マニュアルは今後も改訂していく

4. 終わりに

- ・ 全く古典籍に知識が無くても興味を持って資料に接するとわかるようになる。
機会があれば古典籍の最低限の知識がわかる講習を受けるとよい。
- ・ 利用者はよく図書館員を見ているので本の扱い方には特に注意する。

5 . 質疑

装備について 紙の帙にいれてバーコードをその紙に貼る 本体には請求記号を鉛筆書き する

修理について 糸の切れは綴じなおすがそれ以外は手を加えない

複製について 一般和装本は複写要求があればマイクロ化する 貴重書はデジタル化もし ている

防虫について ナフタリンは使わない 自然木の防虫香を使用している 燻蒸は2年に1 回

研修会について 研修が研修のみに終わらず業務につながっているのはなぜかの問いに対し、

目録作成業務が先にあって研修が必要になったためであるとの回答があった。